

日程表

日時	場所	内容		
8月19・20日 13:00～15:30	中央青年の家	第1回チーム編成		
		DREAM TERM	MILKケーキ	新選組
8月23日 8:30～18:00	お魚牧場	八幡浜・向灘		
9月23日 10:00～16:00	道後公民館	第2回		
9月30日			大野ヶ原	瀬戸風峠
10月1日		市駅前子ども会議	大野ヶ原	
10月21・22日 13:00～15:30	中央青年の家 荏原公民館	第3回発表会		

みんなでチャレンジ みんなのチャレンジ I

開催日時 平成18年8月19日(土)13時～20日(日)15時30分

会場 愛媛県生涯学習センター

<19日>

13:00 開会式

挨拶:理事長 村上伸二
アイスブレイク・レクリエーション
・出会いのインジャン
・パズル de 仲間さがし
・わたしのうた

14:00 グループワークショップ

SHOKU CHALLENGE = ?
SHOKU + チャレンジ = ?
「食」「職」「触」

16:00 中央青年の家に移動

17:00 夕べのつどい

18:30 ショクミーティング

グループ名やテーマの決定

<20日>

7:00 朝のつどい

8:30 ショクミーティング

チャレンジすることを決定し、
計画を立て、ワークシートに記入

13:30 ショクミーティング

チャレンジ当日に向けての確認と
それまでに調べることなどの役割分担

14:30 全体会・出発式

チャレンジすることや計画を発表！
チャレンジ宣言！！

ほとんどの参加者が初対面のため、3つアイスブレイクを行い、レクリエーションをするなかでグループを形成した。グループワークショップは、KJ法で行った。まずは、「SHOKU + CHALLENGE = ?」とし、「わくわく」「ドキドキ」「不安」など率直な今の気持ちを書き出してもらい、メンバーの気持ちを共有する作業を行った。その後、「SHOKU(食・職・触) + チャレンジ = ?」として、各「シヨク」ごとに、チャレンジしたいことや知りたいことなどの書き出し作業を行った。



ショクミーティングでは、書き出したことをもとに、チャレンジすることを提案・決定し、役割分担をしながらワークシートにおとしこんでいった。



みんなでチャレンジ みんなのチャレンジ II

開催日時 平成18年9月23日(日) 10時~15時

会場 道後公民館

<23日>

10:00 道後公民館 集合
挨拶:理事長 村上伸二

10:10 チャレンジ スタート!

DREAM TEAM

八幡浜でのチャレンジの振り返りと次のチャレンジについての打合せ

MILK ケーキ

大野ヶ原でのチャレンジに向けて、プレチャレンジとしての試食会と次のチャレンジに向けて打合せ

新実践組

道後の竹山でのチャレンジに向けて、プレチャレンジとして、竹筒炊飯の試食会と次のチャレンジに向けて打合せ

12:00 昼食

コック長のオムレツ付き特性カレーとサラダとともに、新実践組の竹筒で作った鯛めしをいただきました。

また、MILK ケーキの作ったヨーグルトケーキとプリンケーキもおやつの時間にいただきました。

ひきつづき、チャレンジ活動や打合せ・反省会など行う。

15:00 終了

新実践組は、9月30日の竹筒炊飯調理のチャレンジに向けて、試作会を行った。竹筒炊飯をするための水加減や炊飯のコツなどを教えてもらい、出来上がった鯛めしは参加者全員にふるまわれた。竹細工の店にも出向くなど、竹細工づくりもチャレンジに取り入れられた。試作会を終えての反省と、次回のチャレンジについての打合せを行った。

約1ヶ月ぶりの再会。

グループがそれぞれに一日を過ごした。

DREAM TEAMは、8月23日に八幡浜でのチャレンジを行っていたために、そのとき感じたこと、反省、これからしたいことなどを、KJ法を使いながら書き出していった。その結果、3回目の中央青年の家にて、30人分の料理を作ることになった。



MILKケーキは、9月30日~10月1日の大野ヶ原でのチャレンジに向けて、ヨーグルトケーキとプリンケーキの試作会を行った。ケーキは、当日の参加者全委員にふるまわれた。試作会を終えての反省会と、それぞれが調べてきたことの報告、そして次回のチャレンジについての打合せを行った。



海に挑戦 八幡浜で海を喰らう

DREAM TERM



調理にチャレンジ

8月23日 水曜日 の出来事

八幡浜で「食」にチャレンジしたいと思った。いろいろなことに挑戦したかったが、大人から安全面のことなどで、ストップがかかった。

それでは、自分たちがやりたいことができないと、大学生がリーダーシップをとり、大人抜きで考えることにした。

自分たちですべてやりたかったので、火起こしの道具を考古館で借り、実際に火を起こしてみた。このときは、うまく発火しなかったけれど、本番では成功した。このときの感動は忘れられない。



火起こしにチャレンジ

また、素潜りで、うにを50個ぐらい獲ったが、中身はおもったより少なかった。たこも獲りたかったが、無理。いろいろしてわかめが群生しているところにモリを突き刺したら、偶然、ハギがとれた。最後に、クルージングをしたり、ダイビングをしたりして終わった。

八幡浜に行っていたいへん驚いたのが、普段、なかなか食べることのできないうにが、自分の手の届くところにいたことである。また、にな貝など、食べたことのない海の生き物を食べることもできた。

日常の生活の中で、できないことに挑戦したかったこともあって、感動の連続であった。

飯ごう炊飯でおそろおそろ炊いたご飯、おさかな牧場の方が差し入れしてくださったたいのお刺身、大人の方が持参していた、レトルトのカレー、おにぎりなど、お腹が空いていたこともあって、たいへん美味しかった。

そして、海という大きな自然があった。

わたしたちを見守り、気遣ってくれた大人の人がいてくれたので、なんの心配もなく、楽しむことができた。今度は、その恩返しをしたいと思う。



9月23日道後公民館で話し合い、そして

10月1日 子どもたちだけで集まった。

楽しかった気持ちを返したいとみんなが思った。どんな方法で？かかわってくださった方々、みなさんにお礼をするにはどうすればいいか？など話し合った。

10月21日、宿泊研修の1日目、夕食をドリームチームの子どもたちだけで作ることにした。

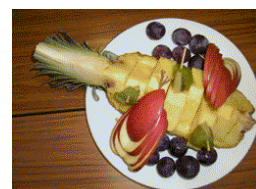


10月21日土曜日

30人分ぐらいの食事を、それぞれが分担した。買出しは、大学生のおかやんが一人でがんばってくれた。たっちゃんが4時間かけて30匹のさんまをさばいた。メニューは春巻き、さんまのばらずし、芋炊き、えびちり、たこてん、フルーツ。食後に一人ひとりから感謝の言葉をいただいて、嬉しかった。

うーん 美味しい！

チームでいた時間は短かったが、自分たちで企画、実行していくことにやりがいを感じ、また、それをまっすぐ受け止めてくれた大人に感謝した。苦手を克服して、多くの人にかかわり、そばで見守ってくれる人に感謝していこうと思う。



大野ヶ原へ行く

MILKケーキ



大野ヶ原にて

8月20日土曜日・8月21日日曜日 大野ヶ原へ行く計画

全員が新鮮なミルクでケーキを作りたいということだったので、愛媛県での北海道のようなところ、大野ヶ原に行くことにした。

スケジュールを決める。

テーマはふれあいを通して3つのシヨクを追求すること。

・担当を決める

牧場見学の依頼、ミルクを分けてもらう話をする人。

小学校の校長先生に、集会所（宿泊）調理室を使わせてもらえるよう電話する人。

青少年センターで寝袋を借る段取りをする人。

・感想・敬語をうまく使えなくて苦しんだ。

電話口に出る担当者が電話を掛けるたびに、かわってしんどかった。

9月23日日曜日道後公民館で

事前に大野ヶ原で作る予定のケーキを作ってみる。

プリンケーキ・ヨーグルトケーキ・ババロア・カッターチーズというメニュー。

ヨーグルトケーキとカッターチーズしか美味しくできなかった。本番まで改良の余地がたくさんあるので、どうすればうまく作ることができるかなど話し合った。

そして、事前に調べたほうがいいことがらなどをピックアップ。酪農・牛の生態・乳の栄養・牛乳になるまで・星・ケーキなど。それぞれが調べてくることにする。

9月30日いざ、大野ヶ原へ

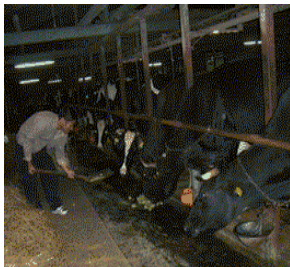
- ・ 1日目 肱川、道の駅の裏のかわらで昼食を食べたのち、大野ヶ原へ。牧場主から、牛はデリケートなので、たくさん人間が来るとお乳がでなくなること、搾乳の時間が決まっていることなどを聞く。ご好意で夕方、搾乳時の見学をする。

大野ヶ原に着くと、小学校の山本校長先生が案内してくれた。空に向かって車が走っているように思えた源氏ヶ駄場では、すすぎがいっぱいであった。あいにくの曇り空で、星が見えないのが残念だったが、はるか下方にとんびが飛び姿を眺めることができた。県境があり高知、愛媛県の境を行ったりきたりしたことも驚きだった。



絶景かな

ぶなの原生林は地元の人しか知らないところ、溢れる緑に森林浴ができた。



乳牛に餌をやる

萱原さん宅の牧場見学をする。飼育の間に作ったという畑まで行く。「どの大根でもいいですよ、大根1本あげます」との言葉にみんなが畑から大根を引き抜く。

牛の餌を作り運ぶ1000万のトラクターを見せてくれた。

また、あたると危ないので、生後3ヶ月で牛の角をきることを知る。干草のえさやり、牛舎のそうじをさせていただいたが、たいへんである。萱原さんの牧場では、家族が1つになって働いていた。印象に残ったのは牛の目がとてもかわいいこと。

アイスの食べ比べをする。ミルク園のソフトクリームは甘くて美味しい、萱原さん宅のアイスは絞ったての乳の味がした。

大野ヶ原小学校は、児童数が7人。廊下にはじゅうたんが敷いてあった。小学校とつながっている台所付集会所で泊まる。

一日目の夜パン・プリンケーキ・ヨーグルトを作った。夕食は、バーベキュー。夜空が見えなかったのがたいへん残念だった。2日目はパン・ババロア・カッターチーズ・ヨーグルトケーキを作った。作ったケーキをお礼に校長先生、萱原さんに届けた。

食は牛乳を使って、いろいろな種類と作り方があるのを知った。また、考え方の違う人と逢えてとっても新鮮だったけれど、酪農という仕事のたいへんさを知った。いろいろな人と触れ合うことができ、いい時間を過ごすことができたと思う。

私たちは、いろいろな人の中で生活していると実感した。今度は、大人がいない、子どもだけのチャレンジをしてみたい。自分の手で乳搾りをして、他の子どもたちへ繋げたい。自分が案内役になれたらと想う。

竹に挑戦

新実践組



新実践組全員集合

テーマを絞る 8月20日・21日

食に挑戦 竹の器ならごみにならないこと。生まれ育った愛媛の郷土料理について調べることにする。

竹についてインターネットで調べる。種類、特徴など。

9月23日 道後公民館で白ご飯 鯛めしを作る。

初めてのことなので、とまどったが美味しかった。そのあと、道後、石手にある竹細工の店舗を見学した。

9月30日

道後の竹山で、竹筒ご飯をつくる。

竹を切るところからはじめた。

竹筒製ふたと竹筒製釜をつくり、出来上がった釜で炊きごみご飯をつくった。

ドラム缶2つに竹を並べて、約1時間炊く。30分蒸らす。ご飯を炊いているあいだに器と箸を竹でこしらえる。

竹細工をすることにしたが、どんな方法でどのようにしてもいいという。みんなと話をしているうちに、他では出来ないことが自由にできることを知った。



オイシクできたよ！竹筒ご飯



みんなで竹細工に挑戦

不安感と期待感でいっぱいだったし、うまくいくかどうか心配だったが、すすんでいくうちに積極的に取り組むことができた。積極的に取り組み始めると、余裕ができて楽しむことができた。

生きている竹を切ったことが面白かった。生きている竹のほうが切りやすいことも知った。
お昼に食べたご飯は、待った甲斐があっておいしかった。

10月21日 バランストーンボをつくる

荏原公民館主事の方がバランストーンボを教えてくれた。

高校生の重松君は10月28日城南高校での文化祭「見せる創作料理」で、バランストーンボを出展することにした。

緊張する一瞬もあったが、チャレンジすると自分のはばが広がったように思う。

最初は、難しくてたいへんだったがだんだん楽しくなった。

大学生は、中高生と大人のはざまで作っていけるのかと不安だったが、いままでと違うことができる期待もあった。

テーマをみつけるのに二時間ほど。しかし、みんな、真剣に考え練っていった。



真剣にバランストーンボを作ります



バランストーンボは、やさしく丁寧に教えてもらって、刺激的な1日となった。

また、いろんな世代の人と知り合うことができた。世代を超えて出会ったそれぞれが、挑戦したいことは違うが、1つのものについて真剣に考えることができた。

今まで、裏方に回ることがなかったので、とてもいい経験になった。一緒になって活動したことがよかったと思う。

出逢いからはじまって、人から人へとつながり、それが大きな力となり、そして助けてもらった。「食」からすべて繋がったような気がする。不安だらけであったが、何かができるということ、自信へ、経験へ、そして、未来へ繋がっていきそうである。

今度、また、自分たちを元気にしてくれる、こういった活動にチャレンジしたい。

“未来へつづく”